

科 目 名

建築設計製図基礎
Basic Architectural Design
and Drawing

1年 前期 3単位 必修

磯田 桂史・秋元 一秀
 (須鎗 敬二)

概 要

建築は図面として表現され、その図面を基に造り上げられる。図面は建築にとって「言語」となり「情報手段」となる。建築を学び、考え、創造するためには、その基となる図面をルールに則って正確に表現し、正しく読み取ることが不可欠である。ここでは、いくつかの基本的な図面の表現方法を学び、あわせて立体感覚を養う。また、基礎造形も演習として「かたち」が持つ「意味」についても考えてみる。

学習目標

- (1) 3次元の立体を2次元の図として表現する能力を養う。
- (2) 造形をおこなう際の基礎的素養として、形態の持つ意味について理解する。

授業計画

テ ー マ	内 容
① ガイダンス、線の描き方	大学での設計製図教育の概説、製図台及び製図用具の使い方の説明、線の描き方の説明及び同演習
② 投象とは、点及び直線の正投象	投象の考え方、並びに、点や線の正投象による作図法の説明及び同演習
③ 直線及び立体の正投象	直線の実長と傾角の作図法の説明及び同演習、立体の正投象による作図法の説明及び同演習、平面図・立面図・断面図の説明
④ 単面投象 i	見取り図（等測図・斜投象）の作図法の説明及び同演習
⑤ 単面投象 ii	大学内の教室を実測し、それを見取り図により作図
⑥ 小建築物のスケッチ	建物の観察とフリーハンドによる表現法、設計課題及びレポートの説明
⑦ 透視図概論、一点透視図法 i	透視図の概説、一点透視図法の説明及び同演習、設計課題レポート
⑧ 一点透視図法 ii	一点透視図法で作図した内観への陰影のつけ方の説明及び同演習、設計課題エスキス i
⑨ 建築模型	建築模型の作り方の説明及び同作製、設計課題エスキス ii
⑩ 二点透視図法 i	二点透視図法の説明及び同演習、設計課題エスキス iii
⑪ 二点透視図法 ii	外観透視図への陰影のつけ方の説明及び同演習、設計課題エスキス iv
⑫ 透視図への着色	透視図への着色方法として透明描法の説明、設計課題に用いた透視図への着色
⑬ 設計課題図面製図	設計課題図面の製図、並びに、指導
⑭ 設計課題作品講評	作品展示、学生投票、選出作品講評
⑮ 試験	点及び線の投象、単面投象、並びに、透視図法に関する試験

授業方法

午前中講義を行ない、午後は製図を主とした演習を行なう。

学習到達度の評価

- 1) 講義に引続き行なう演習で、各テーマの達成度、理解度を判断する。正確で丁寧な作図ができているか、論理的思考ができているかを判断し、評価を行なう。
- 2) レポートにおいては、出題意図の理解、フィールドでの正確な観察、参考資料の質と量、表現方法の良否を評価する。
- 3) それらを総合的に評価する。

評価方法

毎回の演習40点、試験30点、設計課題作品30点で評価する。

教科書・教材

フランシス D. K. チン 著 太田邦夫 訳「建築製図の基本と描き方」(彰国社)

参 考 書

フランシス D. K. チン 著 太田邦夫 訳「建築のかたちと空間をデザインする」(彰国社)

履修上の注意

授業の各テーマは講義と演習（製図）とでセットになっている。演習で問題をとき作図するためには、授業の理解が必須である。理解できないときは、その場で質問することが望ましい。

オフィスアワー

適宜、昼休み（12：00～13：00）に研究室、または事務室にて講義内容に関する質問を受付ける。

「建築計画コース・建築構造コース」における位置づけ	必修／選択の別	学習保証時間
本科目は、シラバスに記載されている建築学科の学習・教育目標の主としてB1に関連する。	必修	67.5時間